

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

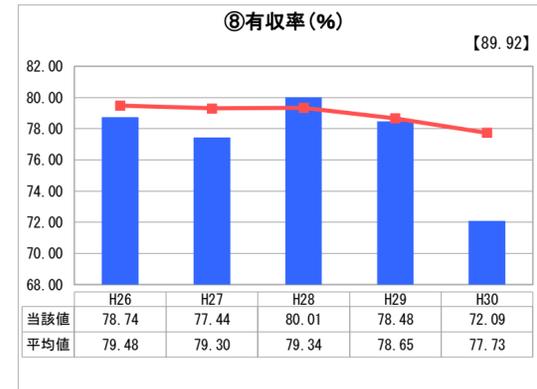
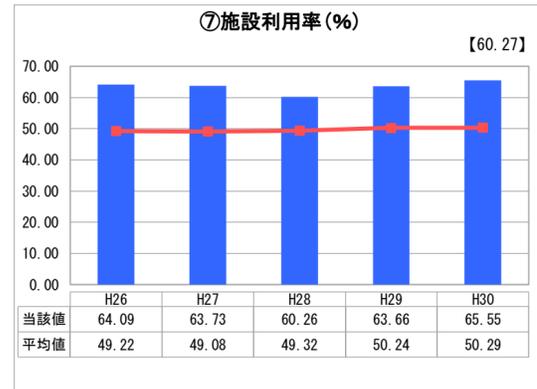
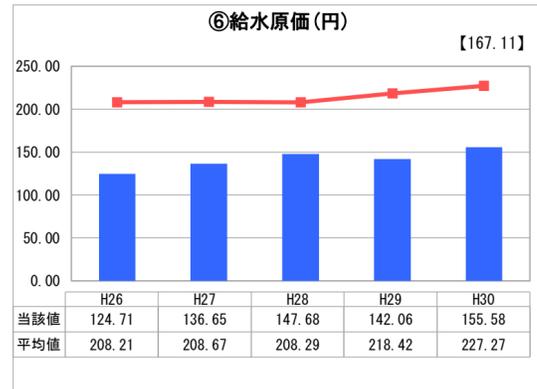
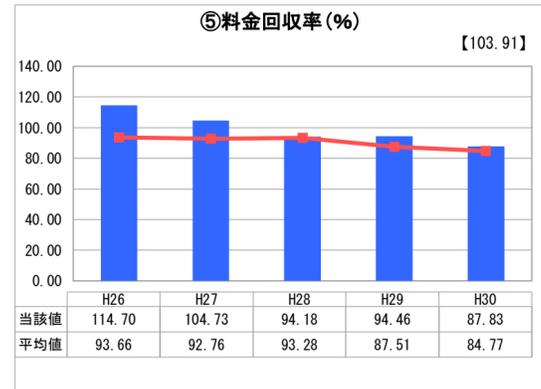
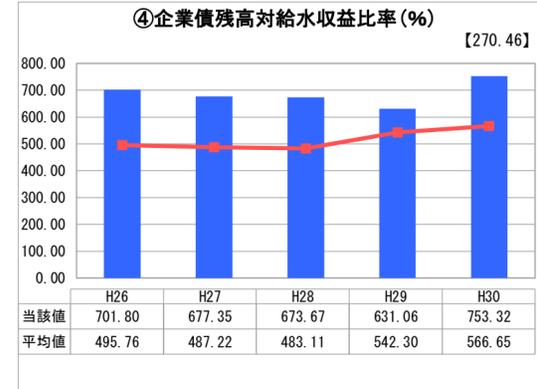
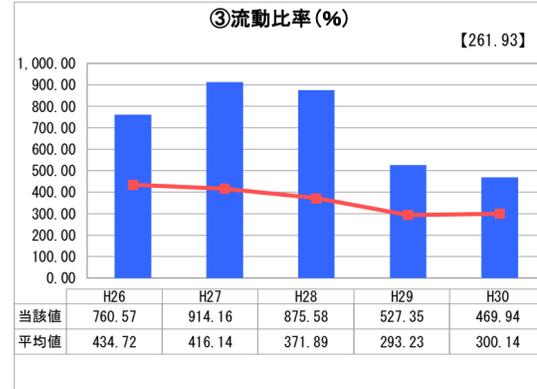
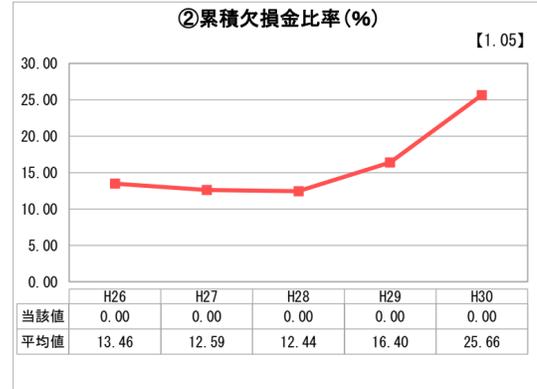
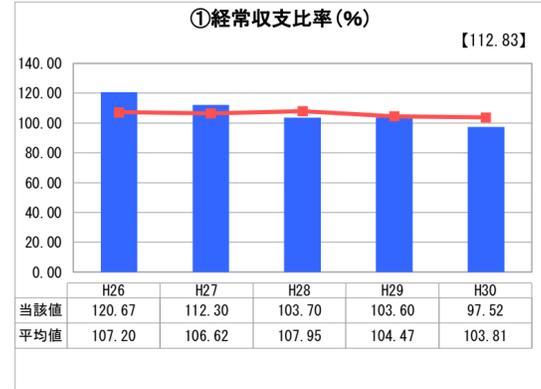
福井県 若狭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	68.27	44.86	2,484	

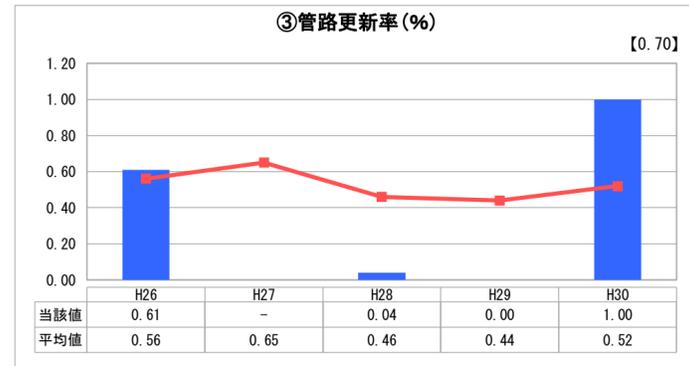
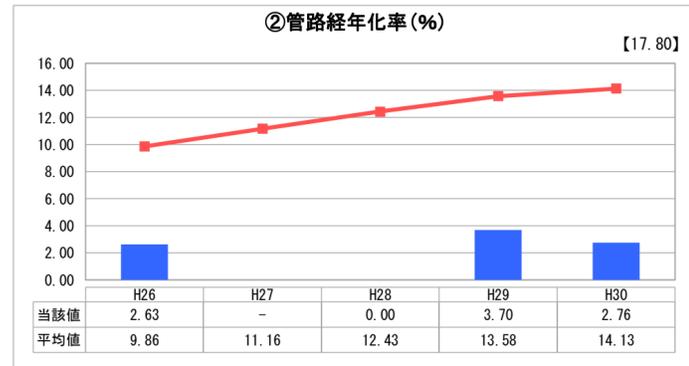
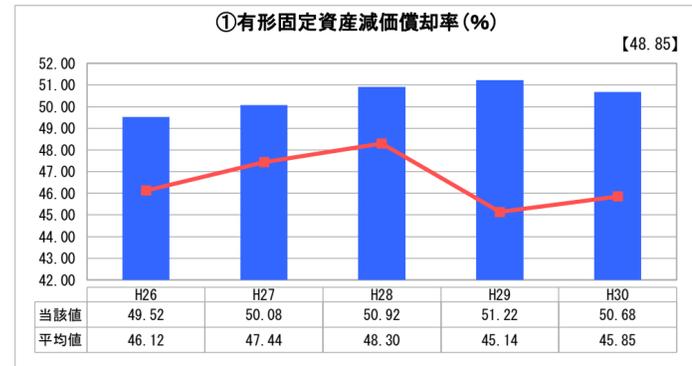
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
14,988	178.49	83.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,642	82.00	81.00

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は導水管更新による除却費の増加等により単年度赤字となり100%を切った。今後も老朽化施設の更新に伴う減価償却費及び除却費の増加、借り入れる新規企業債の支払利息の増加が懸念される。
- ② 流動比率は類似団体平均、全国平均のいずれよりも高いが、流動資産が減少傾向にあることを意識して事業を行う必要がある。
- ③ 企業債残高対給水収益比率は新規借入により増加した。類似団体平均、全国平均のいずれよりも高く、今後も施設更新のために新規企業債の借入増加は必至であり、給水収益の増加に向けた料金改定に取り組んでいる。
- ④ 料金回収率は類似団体平均と近似してはいるが、H30年度は給水原価の上昇により90%を切った。今後は料金改定により給水収益を増加させ、100%以上の数値を維持することを目指す。また長期的にはダムからの取水開始により、大きく変動するものと推測される。
- ⑤ 給水原価は類似団体平均、全国平均のいずれよりも低い、H30年度は導水管更新に伴う除却費の増加等により増加。今後も老朽化施設の更新等に伴い経常費用の増加が懸念される。
- ⑥ 施設利用率は類似団体平均より高いが、今後状況の変化に柔軟に対応し、必要に応じてダウンサイジングを検討することも必要である。
- ⑦ 有収率は類似団体平均と近似していたが、H30年度は大きく低下。未更新配水管の漏水が考えられるため、修繕と防止に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は近年、類似団体平均、全国平均と近似した数値で推移しているが、今後も優先順位を検討しながら、老朽化施設の更新を計画的に実施していく。
- ② 管路経年率は類似団体平均、全国平均とも下回っているものの、大部分の管路が下水道事業に併せ更新を行ってきており、今後大量更新期が到来を迎える。優先順位を定め計画的に更新していくことが必要である。
- ③ 管路更新率は、H30年度は導水管更新により類似団体平均、全国平均とも上回ったが、今後大量更新期を迎えるにあたり費用負担を平準化し計画的に実施してため、アセットマネジメント計画策定を実施中である。

### 全体総括

今後避けられない老朽化施設の大量更新に伴う企業債の新規借入増加は避けられず、それによる償還元金や支払利息の増加、減価償却費の増加から経常経費は年々拡大して行くことが見込まれる。一方、人口の減少に伴い給水収益も減少傾向にある。健全で持続可能な経営を目指すために、簡易水道事業の統合も踏まえた中長期的な整備計画及びアセットマネジメント計画を策定中であり、給水収益増加に向けた料金改定にも着手している。今後も各指標の数値を注視しながら、継続的に取り組んでいきたい。